



日 乗 連 ニ ュ ー ス

ALPA Japan NEWS

www.alpajapan.org

Date 2004. 4. 22 No. 27 - 94

発行:日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan
幹事会

〒144-0043
東京都大田区羽田5 - 11 - 4
フェニックスビル
TEL.03-5705-2770
FAX.03-5705-3274

IFALPA 総会 C Committee 報告

3月25日~30日のIFALPA総会でのC Committeeの内容を報告します。C Committeeでは、Accident Analysis(AA)、Aerodrome & Ground Environment(AGE)、Aircraft Design & Operation(ADO)、Dangerous Goods(DG)、Helicopter(HEL)、International Flight Engineers(IFE)の6つのcommitteeから総会に提案されるPolicyに関する議題について、最終的な採決にかけるかどうか各国の代表によって討議されます。総会では、このほかIndustrial(IND)、Human Performance(HUPER)、Legal(LEG)、Security(SEC)関連をAB Committee、ATS関連をD Committee、IFALPA全体の運営や財政についてはE Committeeでそれぞれ最終的に討議し、全体会議で決議するという形をとります。

今年の総会には、C Committee関連の各committeeより60あまりの議題が提案されました。内容としては、すでにICAO ANNEXに反映されるなど目的が達成されたPolicyの削除、変更されたICAO ANNEXや実態に合わせた形にするための内容や表現の変更、Draft PolicyからPolicyへの格上げなどとなり、ほとんどの議題がcommitteeからの提案どおりに全体会議で採択されました。

このうち、AA Committeeから出された議題「Non-punitive culture」については、来年の総会でのPolicy化を目指してAA Committeeにて再度議論することで確認されました。また、ADOからのAutomatic spoiler/speedbrake inflight retractionに関しては、はじめの提案に日本が反対し、暫らくペンディングとなっていました。日本の主張を踏まえ大幅に変更することが提案されました。具体的には、Fly By Wire装備機とそれ以外の航空機でPolicyを分けました。FBW機についてはSpoilerのAuto-Retraction機能を装備すべき、また非FBW機についてはSpoiler ExtendのままIdle以上のThrustを出した場合には、Visual/Aural Warningが発せられる機能を装備すべきという内容です。C Committeeのなかでは、非FBW機についても今後さらに検討すべきではないかとの意見も出されましたが、英語として意味が分かりやすいようにするための若干の文言変更が提案され、全体で確認されました。

DG Committeeからは、ICAO ANNEXで定められている、緊急事態におけるPICからATCへの危険物搭載通知に関するPolicy提案が出されました。緊急事態における現場のパイロットの立場をより明確にするために文書表現の変更を求めるものです。この件についてもDG Committeeからの提案どおりで採択されました。このほか、IFEのChairmanからはFEのメンバーがだんだん減ってきており、活発な活動は難しく、日本、フランスがおもなFEのCommunityである状況の説明や、AAのChairmanより、一昨年起こったLuxemburgでのLUXAIR Fokker 50のAccidentについてのPresentationなどが行われました。

